

避難の心得

家族の安否確認の方法

災害発生時（震度6弱以上の地震など）にはNTTの災害用伝言ダイヤルサービスが稼働します。被災地への通話がつながりにくい場合に、家族や友人などの安否の確認や連絡などに利用できます。

災害用伝言ダイヤル171

伝言の録音方法

1 7 1 ▶ 1 ▶ 0 5 8 7 - 9 3 - ● ● ● ● ▶

ガイダンスが流れます

被災地の方は自宅の電話番号を入力する。
被災地以外の方は連絡をとりたい被災地の電話番号を入力する。

伝言を入れる
(30秒以内)

伝言の再生方法

1 7 1 ▶ 2 ▶ 0 5 8 7 - 9 3 - ● ● ● ● ▶

ガイダンスが流れます

被災地の方は自宅の電話番号を入力する。
被災地以外の方は連絡をとりたい被災地の電話番号を入力する。

伝言を聞く
(30秒以内)

災害用ブロードバンド伝言板 web171

<https://www.web171.jp/>

携帯電話 災害用伝言板

各社トップメニューから
「災害用伝言板」を開く

伝言の**登録**方法
「登録」を選択

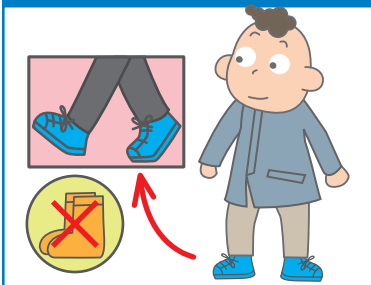
伝言を入力する
(最大100文字まで)

伝言の**確認**方法
「確認」を選択

被災地の方の携帯電話
番号を入力して伝言を見る

避難時の心得

服装に注意



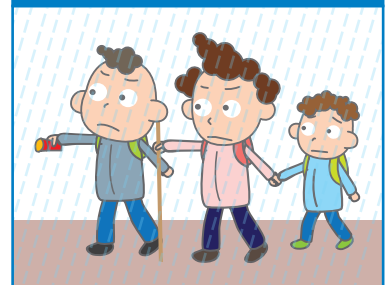
動きやすい服装で避難しましょう。長靴は水が入ると歩けなくなり危険です。水中でも脱げにくく歩きやすい運動靴を履きましょう。

徒歩で避難



浸水すると車のエンジンは止まります。車での避難はかえって危険なうえ、緊急車両の通行の妨げにもなりますので、歩いて避難しましょう。

二人以上で避難



避難する時は、2人以上での行動を心がけましょう。できるだけ単独行動を避け、近所で声を掛け合って、一緒に避難しましょう。

高い道路を通る



避難する時はできるだけ高い道路を通りましょう。アンダーパスや橋は危険なので近寄らないようにしましょう。

水面下の危険にも注意



浸水した道路は足元が見えないため非常に危険です。先頭の方は、杖や棒を持ち、側溝やマンホールなどに十分注意して、水中を確認しながら進みましょう。

万が一逃げ遅れたら



万が一逃げ遅れて避難所まで行く余裕がない場合は、近くの丈夫な建物の3階以上に避難して、電話や懐中電灯などで居場所を知らせ、救助を待ちましょう。